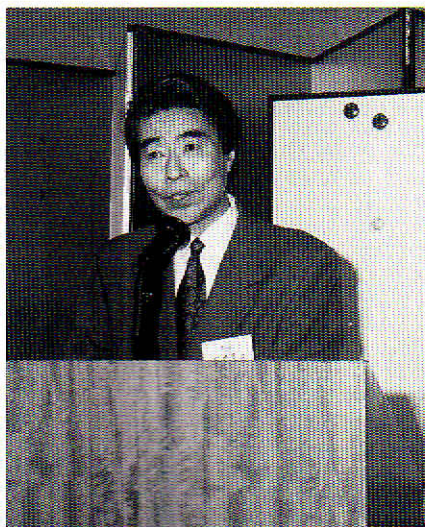


●会計報告●

秋田県立能代高校東京同窓会会計監事

村井克自氏 新制四期



新制四期の村井といいます。ちよつと時間も押しているようですので、簡単に報告させていただきます。お手元のパンフレットの2ページ目を開いてください。平成六年度収支決算報告書がございます。……いかがでございますでしょうか。

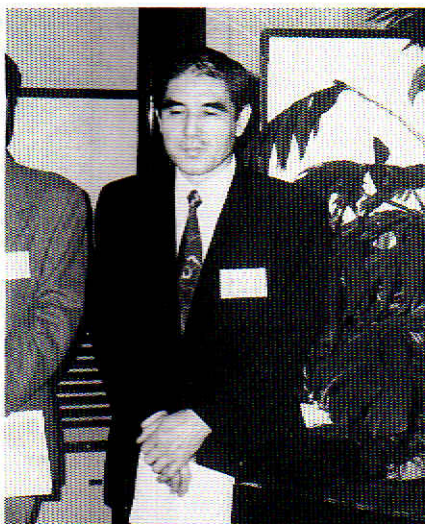
今年度は、特別な事業もなく、また残念なことに、母校の甲子園出場などといった特記事項もありませんでした。したがって、特に補足してご説明申し上げなければならぬこともございません。ここに記載されている通りです。九月三十日に、帳簿その他を完成して、この通り相違ないことを、しっかりと確かめて参りましたので、その旨ここに報告いたします。何かご質問などございましたら、懇親会の時にも承ります。

ごくごく簡単ではございますが、これを収支決算報告とさせていただきます。

●事務局報告●

秋田県立能代高校東京同窓会事務局長

八柳昭義氏 新制八期



事務局からの報告をさせていただきます。パンフレットの幹事会の活動報告のところをご覧ください。ここ数年、能代市内および近隣の他校同窓会との親睦を深め、いろいろ情報交換などにつとめて参りました。その関係で、先日、新たに鷹巣農林高校東京同窓会の総会に招待されました。

先ほど会長からのお話にもありましたが、今年度は、能代北高、能代商高、能代工高、能代西高と改称された旧能代農高、鷹巣農林高の幹部のみなさんのご出席を頂いております。残念ながら二ツ井高のみなさんは、あいにくのご都合で、ご出席頂けないとの知らせを受けております。このような交流によって、同窓会の運営方法や同窓生の消息確認など、いろいろな情報交換を重ねることによって、お互いの同窓会の向上を図るという意向でございます。

また、秋田県高校同窓会連合会（略称・秋高

連）というのが年一回ありますが、これにも参加しまして、広く県内各高校の東京同窓会のみな様との親睦を深め、情報交換の場とすることにしております。

私たちの同窓幹事会は二カ月ごと（偶数月）に開催しまして、会の運営、活動に関して協議を重ねております。パンフには、一応各期の幹事のお名前を列記させて頂いておりますが、正直に申し上げますと、この名簿は正確ではありません。実は、幹事会に出席頂いた方は、すぐさまその場で幹事でございます。

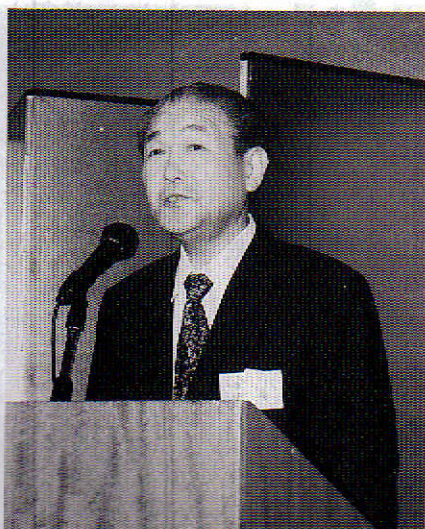
年六回ともなりますと、特定の方々だけが出席するのは、なかなか困難な事情もあろうかと存じます。幹事会の開催の日時を小耳にはさんだ方は、どなたでもご出席ください。そして、ややもするとマンネリになりがちな幹事会に、大いに新風を吹き込んでください。

同期会のほうは、期によっては、なかなかの盛況を見ているという噂も聞きます。同期会もけっこうですが、その同期会の緊密な横のつながりを同窓会に持ち込んで、縦のつながりを構築して頂く。そして、縦横に密度の濃い、ポリシーム感あふれる同窓会にする。これがわれわれ同窓会の、当面の課題でもあると考えております。

本日はじめての方々もいらつしやると思いますので、一応役員を紹介させていただきますので、役員はそれぞれ起立を願います。なお、腰山顧問はご都合が悪く、本日欠席されております。

会長 小林 肇（旧制十九期） 副会長 近藤 誠（旧制十六期） 副会長 太田勝治（新制十一期） 副会長 高田正勝（新制十四期） 副会長 菅原 涉（新制二十一期） 会計監事 村井克自（新制六期） 会報編集長 杉崎孝雄（新制八期）

そして、私が事務局長を努めます。八柳昭義、新制八期でございます。



秋田県立能代高校同窓会副会長

続 隆氏 新制三期

例年の通り盛会の東京同窓会総会にお招きを頂きまして、みな様の強い連帯感と深い友情に大変感激している次第です。本来ならば、神馬同窓会会長がご挨拶申し上げますところですが、都合により、私が代理を努めさせていただきます。先日、能代市におきまして本部同窓会総会がございました。ご多忙のところ、小林東京同窓会会長には、遠路ご参加頂きました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

来年(平成七年)は、わが母校能代高校の創立七十周年の記念すべき年であります。昨年十月下旬、同窓生、PTA役員、学校職員よりなる七十周年記念記念事業実行委員会が結成されました。会議を重ねることで、記念式典の日時が決まりましたので、ご報告申し上げます。日時は平成七年九月二二日(金曜日)でございます。ぜひ友人多数誘い合わせてご参加くださるようお願い申し上げます。会場は能代市文化会

館の大ホールですが、ここは懐かしの樽子山。あの木造校舎の跡に建った文化会館を式場とします。東京同窓会からも多数参加くださるよう、重ねてお願いいたします。

十時から記念式典、十一時から記念講演会、午後一時からは会場を平安閣に移して記念祝賀会を予定しております。なお、講演者は東京同窓会会員の水木初彦さんです。水木さんは東大時代にボート選手としてローマ・オリンピックに出場し、現在は朝日新聞の東京本社総務企画室長として活躍でございます。



秋田県立能代高校教頭

鈴木 進先生

本日は東京同窓会にお招き頂きまして、ありがとうございます。急用で出席できなくなつた小野寺校長からも、みな様にぜひよろしくとのことでございます。

能代高校は、平成四年度の硬式・軟式野球部の全国大会アベック出場以後、若干低迷を続けておりますが、硬式野球部は、今年の秋の新人

七十周年の記念事業として、同窓会会員名簿の刊行、七十年の歴史を刻んだ記念碑の完成など八つの行事を計画し、各部門ごとに着々と進行中です。昨年の十二月と本年六月と二回に渡って募金をお願いしたわけですが、すでに募金をしていただきました同窓生各位には、この場をお借りしまして、深く厚く御礼申し上げます。そのほか、みな様の常日頃のご協力と母校に寄せるご好意に、深く感謝申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

戦では目ざましい活躍が見られました。平成七年の七十周年には、十分期待のもてるチームでございます。軟式野球部も練習試合において、現在まで負け知らずの成績をあげております。これまた大いに期待できると思えます。

そのほかの運動部、文化部の活躍もそれぞれに目ざましいものがあります。

例えば、先日の本校文化公演会では「ブレ七十年周年企画」として、本校出身で、現在名古屋芸術大学教授でいらつしやる若森榮助先生をお招きして、先生のバリトン・リサイタルを、文化会館大ホールで催させて頂きました。

全校生徒、職員をはじめ先生の級友、恩師など約千二百人を前に、「木兎」「泊り船」など全十六曲。中には日本民謡集からの「南部牛追い唄」など方言を交えたユニークな曲も披露、会場の笑いを誘うとともに力強く、温かく響く歌声によつてホールを埋める聴衆を魅了しました。この企画にいろいろご尽力を頂きました関係各位に、心から御礼申し上げます。

最後に、東京同窓会会員のみな様の力強いお顔を拝見いたしまして、能代高校の明るい前途を見た思いがいたします。今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。

天気予報と日常生活

渡辺博栄氏 新制二十五期



昭和四十八年に卒業しました、新制二十五期の渡辺です。今日はみな様の前で、特に大先輩を前にして、高い所からお話をさせて頂くという事で、少しおこがましく、テレビ以上に緊張しております。少しでも天気予報が身近になるような話ができればいいな、と思っております。二十分ぐらいお話の後質問などがあれば、お答えしたいと思っております。

私は、四十八年に気象協会の秋田支部に採用されました、三年間、現在の秋田新空港の気象調査にあたりました。みなさんも秋田にお帰りの時お感じになると思いますが、あの辺は非常に強い風が吹きます。あそこで、一月常駐しては二カ月間里に降りるといふ生活を、三年間続けました。現在の空港の気象の基礎データを作

つたわけでございます。

その後、仙台勤務を経て、平成三年の十月に東京勤務となりました。仙台でもラジオ、テレビを約十年担当しましたが、NHKの全国ネットワークの気象番組を担当するようになったのは、昨年(平成四年)の四月からです。

去年の四月から今年の三月までは、金、土、日曜日と、週の後半を担当したのですが、今年の四月からは、ご存知のように、折坂さんという若い美人女性が月曜日から金曜日を担当することになりました。一日減らされてしまいました。やはり女性の時代でしょうか、折坂さんには大変ファンレターも多く、このままでいきますと、来年あたりは私など降ろされてしまうのではないかと、心配しております。

紳士よりは若くて いい加減な奴がいい

私になぜ天気予報を担当することになったかといいますが、その方面に詳しく、この通りマスコもいからというではありません。

前年まで日曜日を担当されたのが、倉嶋さんという方でした。倉嶋さんは、ご存知の方も多いと思いますが、弁も立ち筆も立つ、いわゆる名物ウエザーマンです。倉嶋さんが気象庁を退官しまして、番組を降りることになる。ところが倉嶋さんの後任となりますと、なかなか適任者がいないわけです。それならいっそ思い切つて、若くて見るからにいい加減な奴がよからうということ、私にお鉢が回ってきたということです。ですから、日曜日など、パジャマスタイルで、気軽に天気予報をのぞく視聴者を想定しまして、倉嶋さんの紳士然とした服装とは違う、ラフなスタイルで出るようにという要請もあつたのです。

さて、私は根が真面目ですから、その要請通

りラフな格好でフラリと画面に現れました。ところが、さすがNHKの視聴者といいたましようか、「あのお化けのような格好で出てくるのは何者か」と、全国から苦情が殺到したのです。そこで、スーツにネクタイという、今のようなスタイルに落ち着いたようなわけです。

さて、今年の夏は大変な異常気象でした。気象庁観測以来始めて梅雨明けが確定できない異常さでした。あまり古い資料との比較はできないのですが、天明の大飢饉を招いた冷夏に匹敵する冷夏であろうといわれております。

統計によると、夏、二十八度を越えるあたりから冷房が使われます。三十度以上一度上がるごとに、東京電力だけでも、一日百万キロワットぐらい需要が伸びるということで、天気自体がビジネスに深く関係しております。気温一度で何億、何十億の収支の差が生まれるのです。したがって、気象協会も東京電力を始め、いろいろな企業に予測を提供しております。身近なところでは、西武球場、神宮球場などでも、われわれの予想次第で、監督の作戦も違ってくるようです。球場で販売される食事の準備・購入量も違ってくるのです。

こういう仕事ですが、天気予報はあたって当たり前、はずれた場合は抗議の雨あられ、これにはさして逃れる傘もありません。先日の中秋名月の夜も、東京地区では「雨」と予報しましたが、これがはずれ。とたん気象庁・NHKに抗議の嵐。「晴れと予報したのに、雨でせつかくのお月様と対面がかなわない」というのではないのです。弘法も筆の誤りです。見逃してくれてもよさそうに思うのですが、そうはいかないお固い人もいます。中には「もうNHKには受信料を払わない」と八つ当たりされる方もいらつしやる。私はなるべく電話には出ないようにしておりますが、たまたま出た電話で、

延々2時間の抗議を拜聴。その間、サンドバツグさながらに、叩かれっぱなしだったこともありました。

白然心を受止め止めることが われわれの仕事

最近エルニーニョというカタカナ言葉を見聞きいたします。これが冷夏の原因の一つ、というよりは現在世界各地で活発な火山活動が影響してエルニーニョを引き起こし、それが冷夏を生んでいるという見方が発表されました。しかし、エルニーニョを引き起こす原因はほかにもあると、ただ今、気象庁では調査研究を続けております。

いづれにいたしましても、私たちは自然の力に対しては受け身の存在でしかありません。例えば雷一つを考えましても、そのエネルギーは膨大です。台風などその方向や位置を変えようとするば、おそらく水爆百個ぐらいのエネルギーが必要であろうといわれております。気象は人間の生活に直接関わる重大な事象ですが、自然の生み出す現象に逆らって、自然現象そのものを人間に都合よく変えるということはほとんど考えられません。したがって、「今年の長雨はどうなっているんだ。気象庁は何をやっているのだ」と苦情を頂きましても、こればかりはどうしようもないわけです。

結局のところ、自然にはかなわないというのが本当でしょう。したがって、気象の予測や研究は、自然の猛威に対して、どれだけ被害を少なくするかということが、一番の目的だといつてよいと思います。

当初、日本の天気予報は、大切な人命を守るという見地から、警報だけだったようです。近年は災害予防の対策も進歩し、伊勢湾台風や洞

爺丸遭難のような多大な人命損失の悲劇は、この十四年間ぐらにはありません。しかし、先頃のリンゴ園全滅、今年予想される大凶作など、まだまだ財産までは守ることができないというのが実状です。

天気予報はお医者さんと似ております。お医者さんの問診や顔色診察などと同じように、天気予報も観測によって、まず空の状況、雲の流れなどのデータを収集いたします。その後、血圧や血糖値、尿蛋白などを測定するように、気圧や気温などもろもろのデータをコンピュータで分析して、天気予報として発表するという順序になります。

観測は、大きく分けて一日一回。日本時間の朝九時と夜九時。これはグリニッジ天文台が0時の時、世界中が同じ条件で同じことを観測しようということ、世界約七千の天文台が一斉に観測活動をします。その素データを東京に集めて、加工したものをまた世界に流すというふうなことを行っております。今、世界各地で地域紛争があります。そのような時にあって、一番国際協力がスムーズに行われているのは、気象ではないかといわれております。国境を越え人種を越えて、同じ時間に人間の心臓の高さから頭の高さぐらゐの気温を測ります。高層は二万三万メートルを気象衛星などを使って観測します。

アメダスは日本独自のものです、およそ千三百カ所ぐらゐあります。強い雨の場合は、これだけかなり正確に予測できるのですが、ほんの少しの雨、あるいはごく限られた地域の短時間の天候の急変などまでは、まだまだ正確というところには至っていないようです。

気象衛星の「ひまわり」からの写真ですが、あれは大体赤道上に五つの静止気象衛星があつて、そのうちの二つを日本が分担しているの

です。これは冬型の雲の写真で、日本の位置はここです。筋状の雲が一杯に広がっています。NHKの場合は、気象衛星からダイレクトにこの写真を取りまして、画面に流すわけです。こちらの写真が台風です。

当初日本は、南極と北極を縦に回る極軌道衛星を希望したようです。これは大まかな雲しか発見できないのですが、連続の雲の移動がわかるという利点があります。極軌道衛星は現在二つ。一つはアメリカ、一つはロシアが分担しております。その一つであるランドサットは、地上の新聞の大見出しぐらゐまで読解可能といわれますので、気象観測のほかに、軍事目的で使用されている模様です。終戦間際、日本の上空にはかなり強い西風、ジェット気流が吹いているということが発見されました。この発見のきっかけになったのは、アメリカ空軍の予想襲来時間と実時間とのズレだったということです。戦争によって、あるいは軍事目的で発達・発見した事象であつても、現在平和目的で大いに活用されているのは結構なことだと思います。

もともと天気予報の発達と軍事科学は、切っても切れない密接な関係がありました。現在気象観測にはレーダーが使用されておりますが、このレーダーも襲来する敵機の発見のために開発、進歩したものです。レーダーで敵の飛行機を発見する際、邪魔になるのが雨でした。しかし、邪魔な雨をつぶさに読み取つてしまうことが、平和利用としての気象観測に大いに役立つことなるわけです。

天気予報の成績は 東大合格にあと一歩?

さて、それでは天気予報は、現在点数をつければ何点ぐらゐか。百点満点にして八五点といったところでしょう。それが高いか低いかは、

意見の分かれるところですが、ちなみにある調査機関の資料によると、今年の東大理科II類のセンター試験の合否ボーダーラインが百点満点で八六・三点、合格者の二次試験の平均偏差値が六五・〇であったとだけ述べておきます。

予報確率の一番いいのが、冬型の気圧配置の時、毎日太平洋側を晴れ、日本海側を雪としておけば大体あたります。もちろん、私たちは占いをやっているわけではありませんので、このような予報はいたしません。逆に、はずれるケースが多いのが季節の変わり目です。梅雨明け間近と予報したのに、前線がなかなか北上してくれないなどのケースが起りがちです。

天気予報には、統計も重要なウエイトを占めています。昭和三九年、東京オリンピックの開催日時の決定に、この統計資料が一役かっただけです。まず、北欧諸国からの要望で、開催は十月頃と決まったようです。十月初旬まで続く秋雨の時期、これの終わりはいつかと判断するのが、気象庁の腕の見せどころでした。十月後半にもつてくれば、雨の心配はほぼ解消するのですが、日本の秋から冬への移行は意外に早いです。後半の競技に寒さの影響があつてはならないだろうという意向のもと、統計資料を駆使して、ぎりぎり早めて開催日を十月十日としたわけです。九日までの雨が十日にはあがり、晴天下で挙行された開会式を見て、気象庁一同鼻高々であつたといわれております。

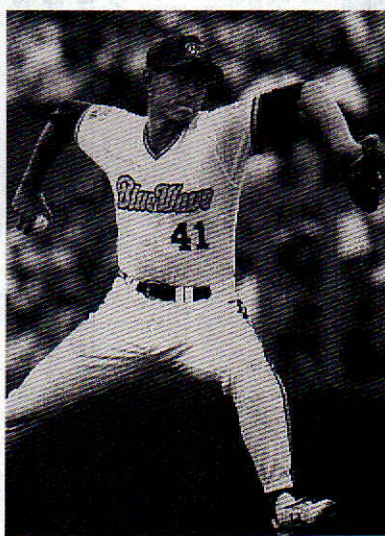
私は今、朝三時半に起床しまして、一度気象庁に寄り、五時半にNHKに入ります。いつてみれば、早起きが私の仕事の半分ぐらいなもので、NHKに到着すれば、仕事の大半は終わつたようなもの。後はほんの短い放送で、黒田キャスターらの突っ込み、しどろもどろに受け答え、ポロリと能代弁を出しながら、あわただしく画面から消えるのが、私の週末です。

耳まで上気、 故郷に晴れ次女 オリックス・ブルーウエーブス

高橋功一

秋田市営八橋球場。能代高校時代はあこがれの場所だった。3年生の夏は県予選の3回戦で敗れ、この球場のマウンドには立つことさえできなかった。あれから6年が過ぎた。平成七年六月四日、故郷に晴れ姿を披露する場は、つい先頃の汚名をながなんでも返上する場でもあった。前回、五月二十八日の西武戦での登板では、わずか四回で5失点。仰木監督に「逃げて四球を出すな。どうせ負けるなら正々堂々正面からぶつかってこい」と、きつく叱られた。

イチローを始めとする打撃陣がいくら好調でも、それだけでは優勝は望めない。野田、長谷川、星野の三本柱に続く四番投手としての成長を期待する監督の愛の鞭なのだ。監督以上の期待に胸を踊らせているのが、スタンドを埋めつくし、「高橋！」を連呼す



る郷土のファンだった。平静を装いマウンドに向かう足が震えた。鼓動が大きく耳を打った。ふだんは色白のはずの顔が、耳まで赤くなるほど上気していることに気づいた。相手はバレンタイン監督を迎え、昨年と比較すると、一枚も二枚もねばり強さを加えた口ツテ球団だ。打率でイチローにびたりとつける元大リーガー・フランコが四番にすわる。

「調子はいい」と自分に言い聞かせ、第一球を投げた。「逃げないぞ」と、この日は最初から積極的にストライクを取りにいった。広島では近藤さん(能代商高出身)も主戦の一人として頑張っている。一回裏、早くも3点をプレゼントしてくれた味方打線の援護もあつた。負けられない、という気負いもいっしょに消えていた。

七回ワンアウト後、フランコにこの日初めてのヒットをセンター前にもつていかれた。続く初芝にもヒットされた。しかし、なんとか後続を抑えた。八回から清原、鈴木のリリーフ陣にマウンドは譲つたものの、3安打、7三振、2四球の好投だった。完投はできなかったが、このマウンドで白星をあげた。

試合後、母校の大先輩でもある山田ピッチング・コーチは報道陣にこう語った。「ピッチャーに限らず、だれでも、故郷のグラウンドでは、意外にいい仕事ができないものです。私にしろ、落合にしろ、このグラウンドには、何度か『ゴメンナサイ』と謝っています。まして、高橋クラスのピッチャーには大変なプレッシャーがあると思いますよ。でも、これだけ投げたのですから、もう安心とはいえないまでも、これで一皮むけると思っていますよ」

第二部 懇親会

●開会の挨拶●

秋田県立能代高校東京同窓会副会長

近藤 誠氏 旧制十六期



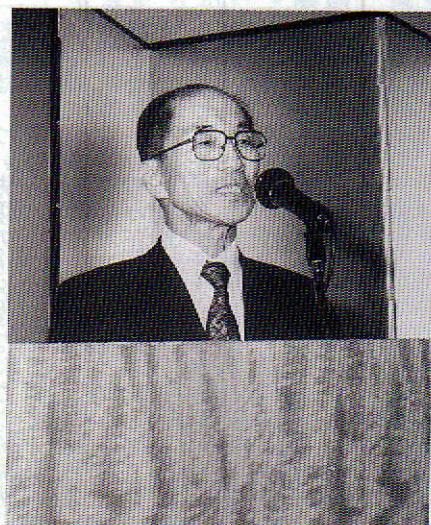
みなさん今晩は。旧制十六期の近藤でございます。お酒を前にして気もそろそろという方もおられると思いますが、役目上ご挨拶申し上げます。

今年もこのようにみなさんの元気な顔を見せて頂きまして、本当にありがとうございます。先ほど会長の話にもあったように、同窓会に意義をもたせるのは非常に難しい。しかし、とにかくこうして集まることに意義を見いだす、これも一つの方法だろうと思います。

われわれは同じ学窓を巣立って、いろいろな思い出を共有するわけです。先ほどの関根さんのお話で、ちよつと思いついたのは、過去は過去としてわれわれの未来を思う時、今日このひと時が、われわれのこれからの人生で一番若い

時になるわけです。若い人の中には、「年取っているからそう考えるのだろう」と思う方もいらっしゃるかも知れませんが、とにかく、今日この若さで、大いに張り切って第三部を盛り上げて頂きたいと思います。

ありがとうございます。続きまして、第二二代能代高校校長の草薙幸太郎先生と第二三代校長加賀正隆先生にお言葉を頂きたいと思えます。



第二二代能代高校校長

草薙幸太郎先生

私は、能代高校では五三年から五六年にかけて、二年と十月の間、校長としてお世話になりました。硬式野球部の二年連続甲子園出場、軟式野球部の全国大会準優勝、国体での優勝など数々の思い出がありますが、それらに関しては、みな様のお手元のパンフに私の紹介欄がありますので、それを私の挨拶の一部とさせていただきます。

私は大曲の在の出身でありまして、東北の地は能代がはじめてでございます。能代は市民性も大変よくて、しかも友情あふれる先生方に囲まれ、向学の志に燃える生徒に会うことができて、大変心強く、教師としての冥利を満喫したことを覚えております。

能代高校の前身、能代中学の初代校長を務められた武藤健三郎先生の「至誠力行」を教育指針とし、教師の研究姿勢こそ生徒の学習意欲をかき立てるものであるという見地から、研究紀要を発刊したことも、非常に懐かしい思い出の一つです。

語れば尽きぬものがありますが、これをもって、私のご挨拶とさせていただきます。



第二三代能代高校校長

加賀正隆先生

しばらくでございます。私は、昭和六三年四月から平成二年三月まで校長を務めさせて頂きました。が、神馬会長ともども、ふだんのご協力に対するお礼かたがた、学校および同窓会本部

へのさらなるご援助を無心に、旗を持って上京したことを昨日のように感じております。

能代高校には、定時制を含めまして、ちょうど二十年間、教壇に立たせて頂きました。その間昭和四九年には、軟式野球部監督として全国大会に初出場したこと、翌年、校歌に歌われる樽子山から現在の高崎へ校舎が移転したこと、五二・五三年には高松投手を擁する硬式野球部が甲子園に連続出場したことなど、忘れられない思い出の数々に満ち満ちております。

そのほか、雨天体操場の竣工、進学率向上のために授業時間を変更、校門前の前庭拡張計画など、市長さんをはじめ、同窓会のみな様には物心両面でいろいろご支援を頂いた反面、板倉前会長さんには、手厳しいお叱りを受けるなど悪戦苦闘もいろいろありました。

東京同窓会の益々の発展を祈り、私の在任中のお礼を含めまして、本日ご招待頂きましたこと、心から感謝の意を表する次第です。ありがとうございます。

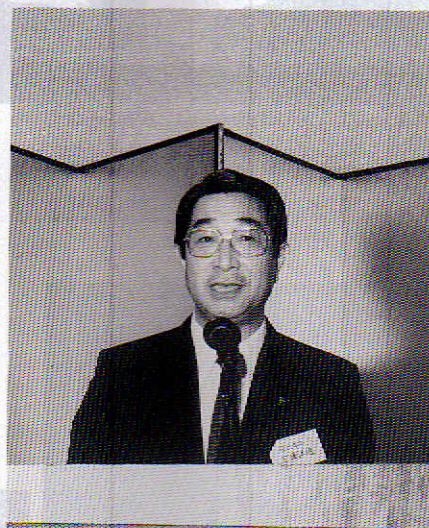
ここで、祝電を披露させて頂きます。

東京同窓会総会の開催を心からお祝い申し上げます。アジア大会出場のため、今回は残念ながら出席できませんでしたが、広島の下から、みな様のご活躍をお祈りいたします。

選手村にて
新制三十一期生 鈴木裕美子

鈴木さんは自転車競技出場のため、広島入りしております。彼女は十一日、最初の種目であるスプリント予選に出場します。鈴木さんのご健闘をお祈りします。

それでは、引き続きまして、忙しい公務をぬって、本日能代から駆けつけてくださいました宮腰洋逸市長からお言葉を頂きたいと思っております。



能代市長

宮腰洋逸氏 新制五期

東京同窓会の総会、おめでとうございます。新制五期の宮腰でございます。今年の秋田は豊作で、故郷のみなさんも元気が出ております。

二、三報告しますが、まず、来年の四月には北大の研究所の一つが能代にできます。堅実で地味でございますが、これを中心に今後この種の研究機関が誘致できればと思っております。

次に、スポーツリゾートセンターが、これも来年の春完成を目指しています。百五十名を収容する合宿施設、です。バスケットボールのコートも4面取ることが出来ます。温泉プールを備えてあります。こういうことで、この施設の利用など、今後みな様のご協力をお願いすることが多いと存じますが、よろしくお願いいたします。

します。

それから来月十一月十七日には、関係各位のご努力によって、新体操の国際大会が開催されます。出場するのは、ブルガリア、中国、日本のそれぞれ代表選手でございますので、新しい体育館の披露を兼ねたイベントとして、申し分のないものと期待しております。

先人のおかげでいろいろな事業が実を結びつつあります。心から感謝いたします。

今後とも東京同窓会のみな様には、いろいろな形でアドバイス、教えを心からお願ひして東京同窓会の益々の発展と、ご参加のみな様のご健勝をお祈りしながら、挨拶の言葉とさせて頂きます。本日はおめでとうございます。

本日は、日頃より親しくお付き合いさせて頂いております、各同窓会を代表されるみな様に、多数出席頂いておりますので、ご紹介させて頂きます。

能代北高松陰会東京支部のみな様、能代工業高校同窓会東京支部東嶺会のみな様、能代商業高校同窓会東京支部のみな様、能代農業高校は今年四月、能代西高校と校名が改称されておりますが、その能代西高校同窓会のみな様、鷹巣農林高校同窓会東京支部、以上5校の同窓会のみな様が、お忙しいところわざわざ、ご出席くださいました。

みな様にお礼の拍手をお願いいたします。

